鹿児島医療技術専門学校 介護福祉科 カリキュラムマップ

- 幅広い知識や教養と優れた判断力を持ち豊かな人間性を兼ね備えている
- 高い専門性と倫理性をもって社会へ貢献する強い意志と自覚を持ち、現場のスペシャリストとして活躍していく意思がある
- 他職種を理解し、他者とのコミュニケーションを図り、主体的に課題解決をしていく姿勢がある
- 技術の進展と自身の職務との関連性を理解し、専門職としての順応性を有する

2年

○予防からリハビリテーション、看取りまで、利用者の状態の変化に対応できる
○多職種協働によるチームケア
○一人でも基本的な対応ができる
○「個別ケア」の実践
○利用者・家族、チームに対するコミュニケーション能力や的確な記録・記述力
○関連領域の基本的な理解
○高い倫理性の保持

介護福祉士国家試験

介護福祉学特講Ⅱ　国家試験対策として「人間と社会」・「介護」・「こころとからだのしくみ」・「医療的ケア」の各科目を総合的に復習する

- 問題解決論：問題解決スキルの習得
- 生活支援技術G、生活支援技術F：手話・点字・家事援助の知識・技術の習得
- 生活支援技術：終末期の介護技術の習得
- 介護の基本F：危機管理・健康管理・労働法規
- 介護実習Ⅰ（4段階実習）：利用者ごとの介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得
- 介護過程Ⅴ、介護総合演習D：ケーススタディの方法・介護研究の理解
- こころとからだのしくみD、医療的ケアⅣ、生活支援技術H：生活場面におけるこころとからだの変化と医療職との連携および経管栄養研修
- リーダーシップ概論：人材マネジメントの理解
- コミュニケーション技術B、コミュニケーション技術A：利用者に応じたコミュニケーション技法の実際
- 生活支援技術Ⅰ、介護総合演習C：各機能障害に応じた知識・技術の習得
- 介護実習Ⅱ（3段階実習②）、介護実習Ⅱ（3段階実習①）：障害者を含む個別ケアの実際を理解する
- 介護過程Ⅳ：統合的な介護過程の実践的展開とチームアプローチ
- 発達と老化の理解Ⅱ、認知症の理解Ⅱ、障害の理解Ⅱ：各領域におけるより専門的な知識・技術の習得

1年

○尊厳を支えるケアの実践
○現場で必要とされる実践的能力
○自立支援を重視し、これからの介護ニーズ、政策にも対応できる
○施設・地域（在宅）を通じた汎用性のある能力
○心理的・社会的支援の重視

- 介護福祉学特講Ⅰ：国家試験を視野に入れた「人間と社会」・「介護」の科目復習
- 医療総合演習：国家試験を視野に入れた「こころとからだのしくみ」・「喀痰吸引」の科目復習
- 日本赤十字救急法
- 介護の基本E：リスクマネジメント
- 介護実習Ⅰ（2段階実習）：個別ケアの実際を理解する
- 心理学、発達と老化の理解Ⅰ、生活支援技術E、障害の理解Ⅰ：老化に関する心理や障害者のこころとからだのしくみを理解する
- 介護総合演習B：実習に必要な知識や技術の習得
- 情報科学
- 介護実習Ⅰ（1段階実習）：介護現場を理解する
- 生活支援技術C、生活支援技術D：介護の技術と知識の習得
- 介護過程Ⅲ、介護過程Ⅱ、介護過程Ⅰ：介護計画を立案し適切な介護サービスの提供ができる能力習得
- 医療的ケアⅡ、こころとからだのしくみC、医療的ケアⅢ、こころとからだのしくみB、医療的ケアⅠ：生活場面におけるこころとからだの変化と医療職との連携および喀痰吸引研修
- レクリエーション援助技術：レクリエーション援助方法の習得
- 介護総合演習A：福祉施設の理解
- 社会の理解B、介護の基本D：介護サービスの種類や制度の概論的理解
- 生活支援技術A、生活支援技術B：介護の技術と知識の習得
- 人間関係とコミュニケーション、社会の理解A、人間の尊厳と自立：人間と社会の基本的理解
- 介護の基本A、介護の基本B、介護の基本C：介護の考え方・意義・役割・専門性の理解
- こころとからだのしくみA：こころのしくみとからだのしくみの基本的理解